

「ダーナ」とはサンスクリット語で、[布施]の意。

ダーナ●第26号
 発行日●平成27年6月30日
 編集／発行●浄土宗平和協会（JPA）
 発行人●川副春海

YEAR BOOK

Jodo Shu Peace Association

荻野順雄浄土宗平和協会前理事長のあとを引き継ぎ、はからずも理事長の重責を担うことになりました。皆さまのご理解、ご協力、よろしくお願い申し上げます。

●
 浄平協事務局長として、13年間、任務に就かせていただき、常に「平和」とは何か？と自問しておりました。戦後70年、平和国家としてのこの国のかたち慣れっこになってしまい、平和であることのありがたさをつい見失いがちな気が、この国には充満しております。

平和の対義語は何でしょうか？大半の方は「戦争」とお答えになるでしょう。しかし、日本語の平和や英語のPeaceの言葉の中には、「平穩」と言い換えられる用法が、たくさんあります。「ああ今日一日平和な日だった」という場合がそうです。この場合の平和の対義語は「不穩」「不幸」と



川副春海理事長

新生・浄平協が発足！ 川副新理事長が語る 「平和の原義を問い返す」

なります。不穩な生活を送らざるを得ない人々の周りには、必ず格差や貧困があります。そんな人々に、法然浄土教の教えを踏まえ、国内外を問わず、手を差し伸べ、寄り添える団体として、浄平協が活動できればと存じております。

欧米、そして日本で話題となったフランスの経済学者トマ・ピケティの

大著『21世紀の資本』によると、彼は資本主義体制をとる全ての先進国で、格差が常に増大していると、結論づけました。この国でも、知らず知らずのうちに、格差が増大しています。2012年の相対的貧困率は16.1%と先進諸国の中でも極めて貧困率の高い国となってしまいました。

私たち浄平協は、これまで、私費留学生に対する「ブックギフト」や、浄土宗平和賞の活動を通じて。もともと身近にある平和、つまり日々平穩に人々が暮らせるような社会を目指し、活動を行ってきました。

絶対的貧困という言葉はご存じでしょうか。一日の生活費が150円(1.25米ドル)=月収4,500円が、絶対的貧困の定義のひとつです。こんな極貧の人々が、世界には14億人存在すると推定されています。さらに住む場所さえ追われてしまった難民、例えばISの武力行動による難民がこの3年で322万人発生しています。浄平協のNGO支援の枠組みは、こんな絶対的貧困層、難民支援に使われております。

●
 新しい浄平協は、WFB (World Fellowship of Buddhists) など国際的な佛教のあり方を追求されている戸松義晴上人、大阪の應典院をベースに、市民社会と佛教との関わりを先駆的に示してこられた秋田光彦上人を副理事長に迎え、理事にこれまで社会参加する佛教活動を顕彰する浄土宗平和賞受賞者3人をお願いして、出発いたします。

浄平協の活動は、そのほぼ全てが、浄土宗の教師、寺族のご理解とご支援にかかっております。心より、皆さまのご協力、よろしくお願い申し上げます。

第7回浄土宗平和賞

應典院寺町倶楽部が受賞 寺を中心にした新しい文化圏の開拓

浄土宗平和協会平成27年度総会は5月11日、宗務庁（京都）講堂で行われ、その席上、「第7回浄土宗平和賞」の授賞式が行われた。

今回受賞したのは、市民活動・芸術文化活動を支援するNPOである應典院寺町倶楽部。1997年に再建された大阪教区の「葬式をしない寺」應典院は、劇場型の本堂ホールや研修室、オープンスペースなどを有する、ユニークな文化施設として広く市民に親しまれている。應典院寺町倶楽部は、應典院と協働しながら、教育や福祉、芸術文化など人間らしく生きていく上でなくてはならない「いのち」の実践を積極的に進め、新しい時代のお寺としてトライアルを続けてきたことが、今回の受賞となった。

受賞した應典院寺町倶楽部の齋藤佳津子・事務局次長に賞状と賞金50万円の目録、秋田光彦・應典院住職にレリーフが、浄土門主・伊藤唯真猊下から授与された。伊藤猊下は「多くの人と手を取り合い、應典院を中心にした新しい文化圏を開拓することに尽くされた」と祝辞を贈った。その後、秋田光彦師より「お寺とNPOの協働



伊藤唯真猊下より表彰される應典院住職・秋田光彦師と
應典院寺町倶楽部事務局次長・齋藤佳津子さん

～應典院寺町倶楽部の理念と活動」と題した講演をいただいた。

浄土宗平和賞は、社会参加する寺院、住職、団体を顕彰しようと、平成21年より設けられた。選考は、4月に行われた浄平協理事会で、推薦された7件（団体、個人）より、選抜された。

寄稿

浄土宗平和賞受賞によせて

應典院住職 秋田光彦

寺にあって、寺にとどまらず

應典院寺町倶楽部に、浄土宗平和賞をいただいた。97年の應典院再建以来、お寺の中にある、もうひとつの非営利組織（NPO）として、18年間の活動を評価していただいたのだろう。「寺を開く」とは、時代のキーワードだ

が、寺単独で「開く」ことはむずかしい。お寺は場所を提供し、NPOは場所を活用していく。両者が協働して目指して来たものは、お寺という場の資源を掘り起こすことであり、またその可能性を引き出すことであったように思う。

受賞式当日には、伊藤唯真猊下から直々にご祝辞を頂戴した。

「應典院では……寺にあって寺にとどまらず、そして寺を出て寺を離れず、という活動をしてきた。多くの人と手を取り合い、應典院を中心に新しい文化圏を開拓されることを尽くした」

身に余るお言葉に感激した。とくに「寺にあって寺にとどまらず、寺を出て寺を離れず」というフレーズに、思わず背筋が伸びた。

受賞したのは應典院寺町倶楽部（以下倶楽部）であって、應典院ではない。倶楽部は檀信徒会では

ないし、護持組織でもない。法人格こそないが、NPOとしての要件（役員組織や事業内容、予算／決算など）をほぼ整備していて、メンバーは宗教や宗派を問われない。そういう宗教と直接関係のない、独立した団体が、なぜ受賞と至ったのか。それには、「寺にあって、寺にとどまらない」ではいられなかった、應典院との長い併走の足跡をふりかえらなくてはならない。

お寺とNPOの協働

應典院は1997年、建物ごと再建された新しいお寺である。寺院全体が文化施設のような設備や機能を持ち、当初から文化創造の拠点として活動を企図していた。そこに至った詳しい経緯はここでは省くが、オウム事件以来、宗教が社会から厳しく批判された当時の世情も十分意識していた。

一方で阪神淡路大震災を契機

に、市民社会が到来し、NPOという新たな言葉が普及した。市民が協働して、専門性を高め、「新しい公共」の担い手となる。ある意味、それは日本社会の変革期でもあったのだが、同時に公益法人としてのお寺の存在を相対化するものでもあった。そもそも寺の公益性とは何か、という問いである。

倶楽部は、97年、應典院と同時に会員制でスタートした。「学び・癒し・楽しみ（教育・福祉・芸術文化）」という、かつてお寺が担った公益の再生を願って、活動が開始された。代表的な事業をいくつか挙げよう。著名講師を招いた「寺子屋トーク」は97年以來67回を重ねるが、他に「舞台芸術祭」「詩の学校」「エンディングセミナー」など5年、10年と続く催しも多い。死別や障害など喪失を語り合う「いのちと出会う会」は、15年間ほぼ毎月開催し、すでに140回を超えている。

一過性のイベントとは違う。長

く持続することで参加者どうしに出会いが生まれ、そのつながりが人々の生き方や暮らし方を支えていく。倶楽部が生み出したものは、人々の関係性の場づくりであったと思う。

若い世代と「共生」の場づくり

倶楽部の活動の最大の特徴は、若者の生き方支援に取り組んだことだろう。仏教とは無縁の、20代、30代の若者たちが連日寺に集う。見た目は、演劇や現代アートなど好きなことをやっているに過ぎないのだが、その底辺には、若者を追い込んだ、時代の重い空気が淀んでいた。

ちょうど90年代は「失われた10年」の渦中にあり、00年代にはニート、フリーター、パラサイトなど社会的弱者としての若者像が流出して、自己責任、成果主義といった「若者切り」が日常化していた。これまで日本の社会を支えて来た安定基盤が壊れ、若者の非正規労働や失業問題が急浮上する。若者の場合、就労の困難は、そのまま「生きる意味」の揺らぎにつながる。彼らは「なぜ働くのか」「なぜ生きるのか」といった人生の命題に向き合わざるを得なかったのだ。

詳細を述べる紙幅はないが、倶楽部は、この時代、若者の生き方支援を打ち出し、弱者としての彼らの生き直し、また社会参加の場を次々と創りだしてきた。具体的な起業セミナーや雇用相談なども開いたが、演劇や現代アートなどの表現活動の支援もまた、その術のひとつであった。自分の内面を



劇場寺院・應典院の外観

表現することで、他者と向き合い、対話や協働を通して、ひとつの架橋を試みる。上演や展示の成果だけを問うのではなく、表現のプロセスからにじみ出る、生きることの課題を引き出そうとしたのである。

NPOの場への提起は、寺のありようを変え、それまでなかったような世代との出会いをもたらした。「青少年教化」というのと少し違う。ここにあるのは、精神的な気づきや共同体意識、つながりの感覚といった、水平的なものへの共感や享受ではなかったか。倶楽部が目指したものは、若者を対象化することではなく、彼らの苦に寄り添うことで、「共生」の関係をつくらうとしたのだと思う。

18年目を迎える倶楽部では、今年8月29・30両日に開催される地域交流イベント「キッズミートアート」の準備に余念がない。お寺や近接する幼稚園を開放し、

地域の子ども・家族と大勢のアーティストが表現を通して出会う広場だ。若者だけでなく、子ども世代、親世代にも、「共生」の場を広げようとしている。

日常の中の公益性とは

2007年、法然上人800年遠忌の記念事業として、「浄土宗共生地域文化大賞」が制定された。日本を代表する伝統教団が、お寺とNPOの協働を顕彰するというもので、以後事業は5年間継続された。その功績は大きい。NPOの仏教界における認知度を高めたことはもちろんだが、そこから寺が内在する社会性、あるいは公益性に対し自ら認識を促したことは画期とっていい。その頃、仏教者による自死遺族支援やホームレス支援が全国あちこちで多発していた。ネットの影響もあっただろう。20代、30代の若い世代の僧侶が、



應典院寺町倶楽部主催・コムンズフェスタ
木村幸恵個展「クリスタル・キャンビー」

街に出て、さまざまな支援活動に取り組み始めていたのである。

そして2011年、東日本大震災が発生、日本仏教は大きな転機を迎える。教団はもちろん、単独で被災地に入りSNSを駆使して、支援活動にあたった僧侶は数知れない。

「傾聴」や「寄り添い」とったふるまいが、仏教者の社会的態度として認知され、その延長線上に2012年から東北大学が立ち上げた臨床宗教師の養成プログラムへと続く。宗教の中に公共善としての資源を見いだす試みである。平易に言えば、「宗教の社会貢献」が、大きくクローズアップされているのだ。

倶楽部の活動をそれらの事象に重ねるつもりはない。ただ倶楽部が発足して18年、日本社会の変化に押し出されるように、日本の宗教、仏教もまた大きな変移の只中にある。葬送の簡略化、後継者



應典院寺町倶楽部主催・第63回寺子屋トーク、小池龍之介師と釈徹宗師の対談

難や過疎化問題、あるいは宗教法人への課税論等々直面する問題だけでなく、間もなく年間150万人超が亡くなる多死社会において、日本仏教は存在感を発揮することができるのだろうか。

寺とNPOとの協働が万能だと思わない。いや、改めて感じるのだが、公益的役割を外部(NPO)化するのではなく、寺自らがその本質に立ち直すことこそ重要ではないのか。別の言い方を用いれば、「社会貢献」という用語に頼らずとも、法務をはじめ日常の活動の中から古くて新しい公益性をどう見いだしていくのか、ということだ。

むろんそれは現状に安住せよ、ということではない。まずNPOなりから外部の専門性やスキルを学び、その位置から寺が内在する可能性を照射してみる。まず森を



應典院寺町倶楽部主催・ブツダのめぐね

見渡して、木を見定めるのである。いまふりかえれば、應典院寺町倶楽部の18年とは、そういう見晴らし台を築き上げるような作業であった気がしてならない。

まさに猥下の仰ったように、「寺を出て、寺を離れず」なのである。

浄土宗平和賞とは？

昨今、改めて「社会参加する仏教」という言葉が提唱されています。本来、宗教的救済すなわち教化と、社会事業的实践は不可分であるといえましょう。

時代の急激な変化が大きな社会矛盾を抱え込むこととなった明治期、貧困の救済をテーマに各宗派・各教団が積極的に慈善事業に取り組み、足尾銅山鉱毒事件や東北地方の大飢饉の災害救済活動にも、宗派を挙げた活動が成果を挙げました。また我が宗に於いては、児童擁護施設の

建設や児童教育のほか、渡辺海旭師の主導のもと、各種の貧困対策事業が開始されています。これらは、後に大きく発展する浄土宗の社会福祉事業の礎となりました。

現代に目を移すと、戦後の高度成長時代を経て、日本の社会は大きく変化を遂げ、共同体や家族の崩壊は数々の社会問題を引き起こしています。このような状況において地縁・血縁を基とした伝統的寺院のあり方に加え、地域コミュニティの再構築、共同体の回復の核となる役割も期待

されています。かつては貧困の救済が主なテーマであった各社会事業も、現代においてはグローバル化や社会問題の複雑化に伴い、多岐にわたる対応が求められています。

本協会は「共生(ともいき)」の理念を基に、一切の生きとし生けるものの安寧と平和を願う仏教者として、「社会参加する仏教」を推進しています。この度の「浄土宗平和賞」の創設は、各地で積極的に社会活動をなさっているご寺院・教師・寺族等の方々を顕彰すると共に、その活動内容を広く会員にご紹介することによって、公益に資する未来の寺院のあり方のモデルとなり、格好のケーススタディと成り得ると考えています。

浄土宗平和協会 年次レポート



浄土宗平和協会（JPA）では、浄土宗劈頭宣言にある「愚者の自覚」に立ち、「世界と共生する」ために、平和の問題に取り組み。具体的には皆さまから寄せられる浄財・平和念仏募金によりNGO支援、ブックギフト活動、浄土宗平和賞、スタディーツアーなどの事業を行っております。

会報ダーナでは、昨年度の事業を報告するとともに、平成27年度の運営予定などを報告いたします。

ブックギフトは平成26年度も 東京、関西、名古屋で実施

ブック・ギフト活動は、浄土宗平和協会（JPA）の主要な活動の一つで、東京都、愛知県、関西圏の大学に通学する私費留学生に、日本語でレポートを書けば、一万円以内の希望する図書を受領できる、というもの。

平成26年度のブック・ギフトは、11月から12月にかけて、東京（大本山増上寺）、名古屋（建中寺＝名古屋市中区）、関西（大本山百万遍知恩寺）の3カ所で授与式が行われ、合計78人の留学生がうれしそうに希望図書を受け取った。

第7回ブック・ギフトin Tokyo／第4回ブック・ギフトin Kansai／第2回ブック・ギフトin Nagoya

○応募総数

東京…23名 関西…36名、名古屋…20名

○授与式参加人数（当日欠席者には後日贈呈）

東京…20名 関西…35名、名古屋…20名

○応募者国籍

東京…中国15名、韓国6名、台湾1名、ベトナム1名
関西…中国23名、韓国5名、台湾3名、インド2名、スリランカ1名、ベトナム1名、モンゴル1名
名古屋…中国18名、インドネシア1名、台湾1名、ドイツ1名

○応募者大学別一覧（応募者数順）

東京…立教大学6名、武蔵野大学3名、首都大学東京2名、拓殖大学2名、中央大学2名、日本女子大学2名、法政大学2名、青山学院大学1名、亜細亜大学1名、東京大学1名、一橋大学1名

関西…京都大学16名、大阪大学7名、同志社大学3名、関西大学2名、大阪工業大学1名、京都造形芸術大学1名、近畿大学1名、成安造形大学1名、梅花女子大学1名、花園大学1名、阪南大学1名、佛教大

学1名

名古屋…名古屋大学8名、愛知淑徳大学3名、愛知大学2名、愛知教育大学2名、愛知県立芸術大学2名、愛知県立大学1名、名古屋学院大学1名、名城大学1名

○応募者在籍一覧

東京…大学院13名、大学10名

関西…大学院27名、大学7名、研究生2名

名古屋…大学院14名、大学3名、研究生2名、他1名

第7回浄土宗平和賞は 應典院寺町倶楽部に授与

「第7回浄土宗平和賞」の授賞式が5月11日、浄土宗平和協会総会のなか宗務庁（京都）講堂で行われた。今回

平成26年 平和念仏募金によるNGO支援実績

団体	プロジェクト名	援助額
日本国際ボランティアセンター（JVC）	アフガニスタン／ナンガハル県北東部における住民主体の生活改善事業	¥700,000
パレスチナ子どものキャンペーン	シリア／避難民の子どもたちへの栄養改善事業	¥500,000
反差別国際運動（IMADR）	ネパール／ダリット女性の心身健康の意識高揚と法的支援活用プロジェクト	¥500,000
ジユマ・ネット	バングラデシュ／チッタゴン丘陵地帯の人権問題解決の丘陵委員会の活動	¥500,000
NPO法人ユニ	バングラデシュ・ラカイプロジェクト	¥200,000
国際子ども権利センター	カンボジア／人身売買・児童労働防止のための啓発ネットワーク	¥600,000
計		¥3,000,000

受賞したのは、大阪の應典院寺町倶楽部。1997年に再建された大阪教区應典院で、寺と協同しながら、寺院空間を活用した様々な活動を展開。市民の文化・芸術活動の拠点となり、地域コミュニティ形成や人材育成に貢献してきた。薬物依存などを抱えた人や不登校などに悩む若者に自己表現の場を与え、社会とのつながりを再生させることにも力を注いでいる。

第8回スタディーツアーはグラウンド・ゼロへ

2年に一度、各地のNGOの活動視察などを行うスタディーツアー。第8回目は、20名の参加で9月1日から9日までの日程で実施した。

ニューヨークの9・11アメリカ同時多発テロ事件で破壊された貿易センタービル跡のグラウンドゼロでの法要、ボストンのハーバード大学での講義、カリフォルニア大学での講義を中心の行程を体験した。

平成26年度 浄土宗平和協会事業報告

平成26年4月～平成27年3月

平成26年			
4月16日（水）	第1回理事会	13:30～	東京宗務庁
5月9日（金）	監査会	13:30～	京都宗務庁
5月20日（火）	平成26年度総会	13:30～	東京宗務庁
5月20日（火）	第6回浄土宗平和賞贈呈式・NGO活動紹介	15:00～	東京宗務庁
5月26日（月）	共生子ども連絡会議	11:00～	京都宗務庁
6月3日（水）	大阪会議	18:00～	大阪
6月	会報ダーナVOL.24（年次報告書）発行、会費請求、会員募集		
7月	ブック・ギフトin Tokyo in Kansai in Nagoya 応募要項配布		
9月1日（月）～9日（火）	第8回スタディーツアー		
9月	ブック・ギフトin Tokyo in Kansai in Nagoya 応募受付開始 平成26年9月1日～9月30日まで		
10月28日（水）	東京事務局会	16:00～	九品寺
11月30日（日）	第7回ブック・ギフトin Tokyo 授与式	15:00～	大本山増上寺
11月	第7回浄土宗平和賞募集（12月号宗報掲載）		
12月7日（日）	第4回ブック・ギフトin Kansai 授与式	14:00～	大本山知恩寺
	平成27年度予算折衝	10:00～	
12月8日（月）	共生子ども連絡会議 第2回理事会	11:00～ 13:00～	東京宗務庁
12月21日（日）	第2回ブック・ギフトin Nagoya 授与式	14:00～	建中寺
12月	会報ダーナVOL.25発行、平和念仏募金お願い		
平成27年			
1月22日（木）	大阪会議	18:00～	大阪
1月31日（土）	第7回浄土宗平和賞募集締め切り		
3月16日（月）	東京事務局会	16:00～	九品寺

平成26年度 浄土宗平和協会収支決算書

（自：平成25年4月1日 至：平成26年3月31日）

■収入の部

款	項	予算額	決算額
(1)	会費	5,100,000	5,902,000
	①正会員会費	5,000,000	5,800,000
	②賛助会員会費	100,000	102,000
(2)	寄付金	2,200,000	1,447,486
	①平和念仏募金	2,100,000	1,447,486
	②緊急募金	100,000	0
(3)	助成金	2,050,000	2,050,000
	①浄土宗助成金	2,050,000	2,050,000
(4)	雑収入	30,000	3,466
	①雑収入	30,000	3,466
(5)	繰入金	1,275,817	1,275,817
	①前年度繰入金	275,817	275,817
	②基金繰入金	1,000,000	1,000,000
収入合計		10,655,817	10,678,769

■支出の部

款	項	予算額	決算額
(1)	事業費	7,630,000	7,551,239
	①NGO団体支援金	3,000,000	3,000,000
	②緊急救援資金	100,000	0
	③ブック・ギフト費	1,200,000	960,135
	④平和大会等関連費	550,000	538,338
	⑤会報費	2,300,000	2,441,503
	⑥啓発・普及費	10,000	0
	⑦スタディーツアー関連費	210,000	231,461
	⑧支部事業助成費	200,000	200,000
	⑨各種団体連帯費	30,000	149,802
	⑩調査研究連帯費	30,000	30,000
(2)	会議費	1,060,000	599,477
	①総会費	100,000	31,937
	②理事会費	600,000	325,060
	③正副理事長会費	100,000	0
	④事務局会費	260,000	242,480
(3)	事務費	1,010,000	1,068,083
	①事務費	1,000,000	1,068,083
	②旅費	10,000	0
(4)	繰出金	700,000	1,000,000
	①基金繰出	700,000	1,000,000
(5)	予備費	255,817	25,000
	①予備費	255,817	25,000
支出合計		10,655,817	10,243,799

平和基金	
平和基金	17,741,254

浄土宗平和協会 年次レポート



浄土宗平和協会は平成27年、新体制となって新たな一歩を踏み出します。今までの事業を継承しながらも、より充実した活動となつよう検討を重ねてまいります。会員数は現在620人（正会員）となりました。当面、全浄土宗寺院の10%、700人の会員を目指します。また、平和念仏募金によるNGO支援や、ブック・ギフト、浄土宗平和賞も、順調です。ブックギフトは、ことしは新たな地域でも実施できるよう検討中です。

浄土宗の公益団体として、内外ともに認められ、自立した事務局体制を構築するよう努力して参る所存です。本年度もどうぞ、浄平協（JPA）のご支援をよろしくお願い申し上げます。

真の公益教化団体を目指します

役員改選期の今年、川副春海新理事長が就任、新たな理事会体制となりました。事務局も新体制となり、よりいっそうの発展に向けた一歩を踏み出す今年度です。

自立した会の運営を目指し、「公益教化団体」として、認めていただくことのみならず、一般社会でも認知されるよう活動します。

ブックギフトは今年も in Tokyo、in Kansai、in Nagoyaで第8回浄土宗平和賞を実施します

回を重ね、留学生にも浸透しつつあるブックギフト事業。今年も、東京、関西、名古屋と3地区で開催する予定です。今後は他の地域での実施の可能性を探っていきたいと考えています。

応募者も、東京、関西、名古屋ともに、著名な大学、大学院、研究生など優秀な人材が、応募していただいております。東京では大本山増上寺にて11月29日に、関西では大本山百万遍知恩寺にて12月6日、名古屋では名古屋市建中寺にて12月13日の開催になります。

8回目を数える浄土宗平和賞は、宗教マスコミなどにも大きく取り上げられ、優秀な宗内の人材を顕彰することができて、協会一同感謝をしております。本年度も会員様の推薦により、候補を決め、来年3月に決定する予定です。会員様の推薦をよろしくお願いいたします。

会員加入を呼びかけ、会の基盤を充実します

平成26年度末で会員数620人、賛助会員31人（団体）となりました。皆さまのご理解ご協力感謝いたします。今年度は、みなさまからのご理解とご支援を元に、さらなる会員増をめざし、宗内御寺院総数の1割以上の参加を

平成27年 平和念仏募金による支援NGO一覧

団体	プロジェクト名	援助額
① 日本国際ボランティアセンター（JVC）	アフガニスタン／ナンガハル県北東部における住民主体の生活改善事業	¥700,000
② パレスチナ子どものキャンペーン	シリア／シリア避難民への物資配布事業	¥500,000
③ 反差別国際運動（IMADR）	ネパール／ダリット女性に対する暴力の削減プロジェクト	¥500,000
④ ジュマ・ネット	バングラデシュ／チッタゴン丘陵人権問題解決の丘陵委員会の活動	¥500,000
⑤ NPO法人ユニ	「アースキャラバン 2015」国内・ドイツ・オーストラリア・パレスチナ・イスラエル他	¥200,000
⑥ 国際子ども権利センター	カンボジア／人身売買・児童労働防止のための啓発ネットワーク	¥600,000
計		¥3,000,000

目標とします

また本年度も、浄土宗保育協会、浄土宗スカウト連盟、浄土宗児童教化連盟と協働してポスター配布を全国の御寺院におこないます。よろしくお願いいたします。

今年も平和念仏募金、NGO支援を行います

平成10年度から全浄土宗御寺院のご理解の元、行っております平和念仏募金の呼びかけを今年度もまた12月に行う予定です。

平和念仏募金を原資としたNGO支援は、ネパール、パレスティナ、バングラデシュなどで活躍する日本のNGOへ助成され、有効に活用されております（詳しくは表参照）。規定として、一事業5年という期間を設け、NGOの事業にも自立を促すような構造になっております。

平成27年度 浄土宗平和協会事業計画

平成27年4月～平成28年3月

平成27年			
4月14日（火）	第1回理事会	13:30～	東京宗務庁
4月27日（月）	監査会	13:00～	京都宗務庁
5月11日（月）	平成27年度総会	13:30～	京都宗務庁
	第2回理事会	14:30～	
6月11日（木）	第7回浄土宗平和賞贈呈式・NGO活動紹介	15:00～	東京宗務庁
	第1回正副理事長会議	13:00～	
6月	平成27年度会費請求、会員募集 会報ダーナVOL.26（年次報告書）発行		
7月	ブック・ギフト 応募要項配布		
9月	ブック・ギフト 応募者受付開始		
11月	第8回浄土宗平和賞募集		
11月29日（日）	第8回ブック・ギフト in Tokyo 授与式	15:00～	大本山増上寺
12月6日（日）	第5回ブック・ギフト in Kansai 授与式	14:00～	大本山知恩寺
12月13日（日）	第3回ブック・ギフト in Nagoya 授与式	14:00～	建中寺
12月	第3回理事会		
	平成28年度予算折衝 会報ダーナVOL.27発行、平和念仏募金のお祝い		
平成28年			
1月	第8回浄土宗平和賞募集 締め切り		
3月	第2回正副理事長会議		
事務局会	随時		
緊急募金	随時		

平成27年度 浄土宗平和協会収支予算

（自：平成27年4月1日 至：平成28年3月31日）

■収入の部

款	項	27年予算額	26年予算額
(1)	会費	5,100,000	5,100,000
	①正会員会費	5,000,000	5,000,000
	②賛助会員会費	100,000	100,000
(2)	寄付金	2,200,000	2,200,000
	①平和念仏募金	2,100,000	2,100,000
	②緊急募金	100,000	100,000
(3)	助成金	1,950,000	2,050,000
	①浄土宗助成金	1,950,000	2,050,000
(4)	雑収入	30,000	30,000
	①雑収入	30,000	30,000
(5)	繰入金	1,434,970	1,275,817
	①前年度繰入金	434,970	275,817
	②基金繰入金	1,000,000	1,000,000
収入合計		10,714,970	10,655,817

■支出の部

款	項	27年予算額	26年予算額
(1)	事業費	7,430,000	7,630,000
	①NGO団体支援金	3,000,000	3,000,000
	②緊急救援資金	100,000	100,000
	③ブック・ギフト費	1,200,000	1,200,000
	④平和大会等関連費	550,000	550,000
	⑤会報費	2,300,000	2,300,000
	⑥啓発・普及費	10,000	10,000
	⑦スタディツアー関連費	10,000	210,000
	⑧支部事業助成費	200,000	200,000
	⑨各種団体連帯費	30,000	30,000
	⑩調査研究連帯費	30,000	30,000
(2)	会議費	960,000	1,060,000
	①総会費	100,000	100,000
	②理事会費	500,000	600,000
	③正副理事長会費	100,000	100,000
	④事務局会費	260,000	260,000
(3)	事務費	1,010,000	1,010,000
	①事務費	1,000,000	1,000,000
	②旅費	10,000	10,000
(4)	繰出金	1,000,000	700,000
	①基金繰出	1,000,000	700,000
(5)	予備費	314,970	255,817
	①予備費	314,970	255,817
支出合計		10,714,970	10,655,817

平和基金	
平和基金	17,741,254

いま世界に、平和念仏の声を届ける！

25年の歩みを経て 新役員の新布陣で 浄平協は次のステージへ

理事長

川副 春海



昭和31年、多摩市生まれ。早稲田大学第一文学部卒業後、佐賀新聞へ入社。7年間の記者生活を経て、専称寺の副住職に。昭和62年から佐賀新聞にアジア・中近東を1年半放浪した体験を連載。また自主映画上映団体「チネチッタ」の設立、NBCラジオ佐賀のパーソナリティなど幅広い活動を行う。教化センター21の会が創刊した「現代教化ファイル」編集長に就任したほか、九州ブロック浄土宗青年会では理事長などを歴任。平成7年に浄土宗僧侶の有志が阪神大震災でボランティア活動を行った際には、その参加者を元にNGO団体「テラ・ネット」を設立。チベットやバングラデシュ、タイなど東南アジアの仏教が盛んな地域で学校や教育施設の建設支援などを行っている。平成26年には知的障害者や精神障害者の自立支援施設を運営する社会福祉法人「もやいの会」を設立、閉校となった小学校の校舎を無償で譲り受け、障害者の就労の場を設ける。浄土宗専称寺住職。著書に『仏教ことば博物館—智慧の森を歩く』など。

■浄土宗平和協会役員名簿

任期：平成27年5月11日～平成31年5月10日

役職	教区	寺院名	氏名
理事長	佐賀	専称寺	川副 春海
副理事長	東京	心光院	戸松 義晴
	大阪	大蓮寺	秋田 光彦
理事	東京	霊性院	齋藤 隆尚
	東京	英信寺	嘉藤 哲也
	東京	光照院	吉水 岳彦
	尾張	西方寺	深谷 雅子
	滋賀	正福寺	山川 正道
	大阪	願生寺	大河内大博
	福岡	真福寺	堀 眞哲
専門委員	東京	妙定院	小林 正道
	東京	勝樂寺	茂田 真澄
参与	東京	九品寺	荻野 順雄
	尾張	建中寺	村上 真瑞
	京都	教傳寺	小泉 顕雄
事務局長	京都	正行寺	池野 亮光

浄土宗平和協会は平成27年に役員が改選され下記の新体制になりました。ここでは正副理事長の略歴を紹介します。

副理事長

戸松 義晴



昭和28年年東京都生まれ。慶應義塾大学文学部卒業、大正大学大学院文学研究科博士後期課程浄土学単位取得満期退学。浄土宗東京教区青年会における国際協力活動の経験より、仏教の社会問題への積極的な取り組みの必要性を痛感。平成元年より平成3年までハーバード大学神学校において応用神学・生命倫理学を学び神学修士取得。留学中にティック・ナット・ハン師と出会い「Engaged Buddhism」に感銘を受ける。日本社会・仏教に意味のある「Engaged Buddhism」とは何かを探求。浄土宗総合研究所「往生と死への準備」プロジェクトでは世界の仏教者の看取りについて調査研究。「死への準備」教育と医学生への死生観教育に携わっている。全日本仏教会事務総長、日本宗教連盟事務局長などを歴任、現在、浄土宗心光院住職・浄土宗総合研究所主任研究員・大正大学・東洋大学非常勤講師。著書に『寄り添いの死生学』『Never Die Alone』など。

副理事長

秋田 光彦



昭和30年大阪市生まれ。明治大学文学部演劇学科卒業後、情報誌編集や映画祭企画、映画製作などに携わる。平成9年には劇場型寺院應典院を再建。市民、コミュニティ、地域資源のあり方を具体的に提案、実践し、市民活動や若者の芸術活動を支援してきた。また、人生の末期を支援するエンディングサポートをNPOと協働して取り組むなど、仏教、アート、まちづくり、コミュニティケアなど、「協働」と「対話」の新しい地域教育にかかわる。新しい地域教育にかかわる。総合幼児教育研究会代表理事、アートミーツケア学会理事、相愛大学客員教授など教育職にも就いている。現在浄土宗大蓮寺住職、應典院代表、パドマ幼稚園園長。著書に『葬式をしない寺—大阪・應典院の挑戦』、『仏教シネマ〜お坊さんが読み説く映画の中の生老病死』、『今日は泣いて、明日笑いなさい』など。



O P I C S

アースキャラバン2015を

NPOユニは、世界規模の平和イベント・アースキャラバン2015を開催、浄平協は共催団体として名を連ねます。

アースキャラバン2015とは、世界各地で平和の祈りの祭典を行い一人ひとりの平和の願いを世界でシェアしようというもの。メインプログラムは、原爆が投下されてから今日まで燃え続けてきた原爆の残り火「平和の火」を広島から東京まで自転車で運ぶ、「ピースサイクリング」。

その後「平和の火」は、東京から空路ヨーロッパに届けられ、アウシュビッツなど戦争の惨禍があったヨーロッパ各都市で灯され、今なお紛争の絶えない最終目的地パレスチナ・エルサレムに届けられます。そこで、四大宗教者たち（仏教、キリスト教、イスラム教、ユダヤ教）が平和を祈念し、戦争で犠牲になったすべての人々のために合同で追悼の合唱をします。

日本では、7月5日に広島平和記念公園で、7月12日には京都知恩院・円山音楽堂で、7月19日には東京増上寺で、チャリティマーケットやピースコンサート、世界的な詩人のクリス・モズデル氏がアースキャラバンのために書き下ろした詩を朗読するなど、多彩なイベントが企画されています。

異なる国籍、人種、宗教の人たちが、お互いがお互いを認め、信じあうきっかけになってほしいとの願いで開催されるアースキャラバン2015、「平和」とは何かを考えるためにもぜひご参加ください。

共生こども連絡会議で今年もポスターを

浄平協ほか、浄土宗保育協会、浄土宗児童教化連盟、浄土宗スカウト連盟でつくる「共生こども会議」は、今年度も引き続き、連合ポスターを製作することを決定、右のようなポスターを作成いたしました。

6月に全国の御寺院に、文化出版局制作のポスターと共に発送されました。大きさはA2版。

はみ
い
る
仏



JPA事務局より

報告●浄平協事務局長・池野亮光

今年度より浄平協事務局長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いたします。

陰ながら、浄平協機関誌「ダーナ」を始め各種出版物の製作、ホームページの更新などのお手伝いをする中で、その活動の概要は承知しているつもりでした。しかし、5月11日の総会並びに理事会、6月11日の正副理事長会議並びに事務局の引き継ぎ会で、荻野前理事長、川副新理事長の浄平協に対する思いをお聞きした時、それぞれの活動はもとより、浄平協そのものに対する理解が、今まで表面的なものに止まっていることを実感しました。

ただ正副理事長会議では、川副理事長、戸松、秋田両副理事長から、今以上に理念を深め、活動の意味を深化させていく予感をさせるような議論が活発に展開され、事務局としての指針をいただいたように思います。

事務局員には有能な3名に就任いただきました。

山口洋典師は立命館大学准教授でNPO活動にたいへん造詣が深く、公職も歴任されています。

大崎信久師は、かつて「お寺の出前」などのユニークな活動を展開、近年では介護の現場で僧侶としての生き方を追求していらっしゃる。

霜村真康師は、昨年浄土宗平和賞を受賞した浜〇カフェの活動にも関わり、現在は「いわき未来会議」の事務局はじめいわきの復興に向けて積極的な活動をなさっています。

当面は、今までの活動をしっかり踏襲しつつ、その意味を再構築し、新たな事業の創設を含め、浄平協の発展に努めたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

浄土宗平和協会（JPA）

◎ 会員募集

国や信条を超え、「平和」という人類共通の理念のために、志を同じくする人々による連携をめざす継続的なネットワーク運動として、浄土宗平和協会は会員を募集しています。入会希望、問い合わせは下記事務局へ。



應典院寺町倶楽部の活動より

[入会要項] 浄土宗平和協会（JPA）の活動にあなたも参加しませんか？

正会員

対象……浄土宗教師・寺族
会費……年間10,000円

賛助会員

対象……檀信徒、企業や宗教法人以外の団体
会費……檀信徒会員 年間 2,000円
法人会員 年間 10,000円（一口）

正会員は、入会時に「私たちは平和を祈念します」と記された会員プレートを贈呈します。賛助会員は、応援に感謝を込めて、会報ダーナに芳名を掲載します。正会員、賛助会員は、スタディーツアーに割引料金で参加できます。

◎ 平和念仏募金のご協力をお願い

平和念仏募金は、各NGO団体への援助、私費留学生に希望図書を贈呈するブック・ギフト活動、社会参加するお寺を顕彰する浄土宗平和賞などの活動に充てられます。

恐縮ではございますが、何とぞご協力賜りますようお願い申し上げます。

- ◆平和念仏募金は、浄土宗劈頭宣言にある愚者の自覚に立ち返り、「世界に共生」する平和・環境・福祉・人権などの諸問題に取り組むための募金です。
- ◆①世界の人人々に役立つ、②共に学びあう、③社会にアピールする、④新たな人材を発掘・要請する一との方針のもと、国

- 際的に活躍するNGO（非政府組織）を支援しております。
- ◆私費留学生希望図書支援「ブック・ギフト」事業を行い、留学生へプレゼントした書籍の購入費として役立たせていただきます。

JPA 浄土宗平和協会4つ活動

- 1 平和念仏募金運動
- 2 ブック・ギフト事業
- 3 浄土宗平和賞
- 4 スタディーツアー・NGO支援

浄土宗平和協会役員・スタッフ

理事長……川副春海	専門委員……小林正道
副理事長……戸松義晴	茂田真澄
秋田光彦	参 与……荻野順雄
理 事……齋藤隆尚	監 事……村上真瑞
嘉藤哲也	小泉顕雄
吉水岳彦	事務局長……池野亮光
深谷雅子	事務局……山口洋典
山川正道	大崎信久
大河内大博	霜村真康
堀 真哲	

ご希望の方には詳しい案内の掲載された協会のパンフレット（入会用振込用紙つき）を同封いたしておりますのでご利用ください。

浄土宗平和協会（JPA）

〒605-0062 京都市東山区林下町400-8 浄土宗人権同和室内
電話075-525-0484 Fax075-531-5105

連絡・問合せ先：浄土宗平和協会事務センター

〒543-0076 大阪市天王寺区下寺町1-1-27
電話06-6771-7641 Fax06-6770-3147 メールjpa-info@jodo.or.jp
郵便振替口座【01020-5-16369 名義：浄土宗平和協会】



平和、共生、みんなのために